

法とメディアⅡ

科目ナンバリング PUL-204
選択 2単位

河嶋 春菜

1. 授業の概要(ねらい)

※本授業は、必要に応じてzoomで実施する場合があります。
マスメディア、ソーシャルメディアなど、さまざまな「メディア」がわたしたちの生活のあちこちにあり、情報を伝達・流通させています。とはいえ、メディアは法による規制をうけており、それによって、わたしたちは容易に情報にアクセスすることができません。本講義では、メディアの現代的状況を念頭におきながら、メディアによって取り扱われる「表現」に付随して定められるルールについて学びます。本講義は、履修生が「憲法」と「法とメディアI」を履修し終えていることを前提にしています。本講義の履修中にも、折に触れ、これらの講義・教科書に立ち返って勉強することを推奨します。教科書とレジュメに沿って授業を進めますが、適宜、参考文献を参照するよう指示しますので、必要に応じて参考書を購入したり、図書館で入手したりしてください。

2. 授業の到達目標

- 1)メディアをめぐる基本的な理念を理解する
- 2)メディアが取り扱う表現の種類によって、それぞれどのような法律问题が生じており、どのような規制によって解決が図られているかを理解する
- 3)以上について、法律用語を使いつつ、自分の言葉で説明できるようになることを目指す
- 4)日々メディアを使い、メディアに頼って生活しているわたしたちは、メディアを上手く使いこす能力をもち合わせていなければならない。本講義でメディアの現代的な法律问题を学ぶことにより、メディア・リテラシーを身につけ、十分な判断能力をもってメディアを利用できる素養を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

期末試験100%
毎回の授業の最後に小テスト(正誤問題・論述問題)を行います。提出は不要。答え合せをしますが、同じ問題を期末試験で問う場合があるので、必ず問題を解き、そのメモを手元に残しておくこと。

4. 教科書・参考文献

教科書
曾我部真裕、林秀弥、栗田昌裕 『情報法概説』 弘文堂(2016年)
参考文献
鈴木秀美、山田健太 『よくわかるメディア法』 ミネルヴァ書房(2011年)
長谷部恭男、山口いつ子、穴戸常寿 『メディア判例百選(第2版)』 有斐閣(2018年)
穴戸常寿 『新・判例ハンドブック情報法』 日本評論社(2018年)

5. 準備学修の内容

予習:教科書の該当箇所を読んでおく
復習:授業ノートと教科書、参考文献の該当箇所を再度読み、自分なりに授業内容をまとめる

6. その他履修上の注意事項

本講義は、履修生が「憲法」と「法とメディアI」を履修し終えていることを前提にしています。本講義の履修中にも、折に触れ、憲法の講義・教科書に立ち返って勉強をするよう推奨します。教科書とレジュメに沿って授業を進めますが、適宜、参考文献を参照するよう指示しますので、必要に応じて参考書を購入したり、図書館で入手したりしてください。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---------------|
| 【第1回】 | イントロダクション |
| 【第2回】 | 通信の自由 |
| 【第3回】 | 個人情報保護1 |
| 【第4回】 | 個人情報保護2 |
| 【第5回】 | インターネットメディア1 |
| 【第6回】 | インターネットメディア2 |
| 【第7回】 | インターネットメディア3 |
| 【第8回】 | 中間まとめ |
| 【第9回】 | 情報公開 |
| 【第10回】 | 報道の自由(犯罪報道) |
| 【第11回】 | 報道の自由(科学技術報道) |
| 【第12回】 | 報道の自由の担い手 |
| 【第13回】 | 報道の自由の担い手 |
| 【第14回】 | まとめ |
| 【第15回】 | 試験と解説 |